

■2018年3月18日 ■鈴鹿サーキット国際南コース（三重県） ■晴れ（ドライ） ■参加台数：第7戦 17台/第8戦 17台



デビュー2大会目の余快選手が初優勝 水越選手が第8戦を制してポイントリーダーに

2017年9月に開幕したROK SHIFTER CUP 2018 鈴鹿シリーズ（全12戦・6大会）は折り返し点を過ぎ、チャンピオンシップの後半戦に突入。その第7戦/第8戦が2018年3月18日に三重県・鈴鹿サーキット国際南コースで開催された。

今大会のエントリーは18台。最年少15歳、最年長56歳と幅広い年齢層のドライバーたちが鈴鹿に集まった。地元の中部地方や近畿圏はもとより、福島県や千葉県など遠い地域からの参加も多い。

大会当日の鈴鹿サーキットは好天に恵まれ、春の穏やかな暖かさに包まれた。とはいえ、時おり吹く風には、まだ冬の名残の冷たさが残っている。スケジュールの最初に行なわれたのは、5分間の計測で1周の最速タイムを競うタイムトライアル。そこで47秒144のトップタイムを記録したのは、日本でのレース経験も豊富な17歳の中国人ドライバー、余快選手（Team EMATY）だった。

余快選手とわずか100分の5秒差の2番手は、目下ランキング2番手に着ける水越健太選手（MOMOX）。3番手は最年少15歳の大草りく選手（MOMOX）。前大会の第6戦で6位に入賞した女性ドライバー、下野璃央選手（ぴいたあぱん）が4番手に。5・6番手に東拓志選手（NEXT-ONE Racing）と廣岡陸勢選手（トレンタクワトロ）が続き、7番手の小林弘直選手（HRT）までがトップとコンマ5秒差以内のタイムをマークしている。



Round 7

(10 LAPS)



メインストレート上のダミーグリッドから1周のフォーメーションラップを行なった後、スタンディングスタートで10周のレースが始まった。ここで4番グリッドの下野璃央選手が発進できずDNSに。5番グリッドの東選手も大きく出遅れ最後尾となった。

余快選手は初めてのポールスタートを綺麗に決めると、トップのまま1コーナーへ。2・3番手の水越選手と大草選手もポジションキープでそれに続いた。4番手には廣岡選手が、5番手には小林選手が浮上だ。ここから余快選手、水越選手、大草選手が抜け出してトップグループを形成し、3台一列で周回を重ねていく。一方、廣岡選手は4周目にストップ、小林選手も6番手に順位を下げた。

レースが終盤戦に入ると、大草選手がやや遅れを取り、優勝争いは余快選手と水越選手の一騎討ちに。最終ラップにはその2台の間隔がさらに縮まった。しかし、余快選手は豊富な表彰台の経験を持つ水越選手のチャージを最後まで跳ね除け、デビュー4戦目で初優勝を果たした。

トップから0.3秒強後れの僅差でゴールした水越選手は、今シリーズ4度目の2位。大草選手は自己最上位を大きく更新する3位だ。金田翔選手 (TAKAGI PLANNING)、伊藤慎之典選手 (HRT)、小林選手、下野麻衣選手 (ぴいたあぱん) の4台によるセカンドグループの戦いは、金田選手がこの集団を牽引したままフィニッシュし、8番グリッドから4ポジションアップの4位となった。



WINNER : 余快選手

ROK SHIFTER CUPに参加するのは2018年からです。スピードが速くて面白いですね。初めてのポールスタートはけっこう緊張したけれど、事前練習のおかげでうまくトップを守れました。後ろの選手にかなり追い詰められたけれど、プレッシャーに耐えて走り切ることができたと思います。周りはROK SHIFTERの経験豊富な選手ばかりで、僕はそれに比べればまだアマチュアみたいなものだけれど、その中で一生懸命走って1位になれてうれしいです。自信になりました。



2nd PLACE : 水越 健太 選手

余快選手が速かったのも、その後ろでミスを待っていました。いける隙があればいつでも抜こうと思っていたのですが、抜けなかったですね。最終ラップもうまくタイミングを合わせることができませんでした。次の第8戦はスタートで先頭に出て、そのまま逃げ切りたいです。クルマの仕上がりはともいっているので、あとはドライバー次第ですね。



3rd PLACE : 大草 りく 選手

レースの途中に2コーナーでミスって、それまで接近していた前の2台と離れてしまいました。最終ラップは前との距離が縮まったけれど、それまでに離れすぎていたので、追い付くところまではいきませんでした。でも、ROK SHIFTERは2度目の大会でこのポジションを走れて、だいぶ自信になりました。前回より成長できていると思います。

Round 8

(16 LAPS)



16周の第8戦がスタートすると、2番グリッドの水越選手が2コーナーで余快選手をかわし、狙いどおり先頭でオープニングラップを終えた。余快選手も遅れず水越選手に続いていく。その背後に大草選手とスタートでふたつ順位を上げた小林選手が着け、序盤から4台のトップグループが形成された。この優勝争いの集団に、やがて1台のマシンが急接近してきた。第7戦でスタートを失敗し3周で戦線を離脱した東選手だ。グリッド最後列の17番手からスタートした東選手は、1周目に8台を抜き去ると、その後も次々とポジションアップを続けてきたのだ。10周目、ついに東選手がトップグループに追い付いた。その追い上げに小林選手と大草選手が応戦して、3番手争いがヒートアップ。ここで水越選手と余快選手がトップグループから抜け出した。レース終盤の逆転をもくろむ余快選手に対して、水越選手はミスのない走りでチャンスを与えない。長く続いた接近戦は、水越選手の勝利で決着した。これで水越選手はポイントランキングの首位に浮上。余快選手はこれまでの自己最上位である9位を大きく更新する2位となった。

東選手はファステストラップを叩き出しながらの追い上げを3位フィニッシュで実らせて表彰台を獲得。小林選手と大草選手は最後まで好バトルを続け、約0.1秒の差で小林選手が4位、大草選手が5位に。単独走行の金田選手が6位、続いて下野麻衣選手が2戦連続の7位でチェッカーを受けた。

WINNER：水越 健太 選手

鈴鹿での(レース2の)優勝は初めてです。ようやく勝てました。久しぶりのガッツポーズは気持ちよかったですね。何としてもスタートでトップに立って逃げ切る体制を作りたいと思っていました。でも余快選手が後ろにへばりついてきたので、精神的にも体力的にもキツかったです。トップに立ってからは集中力を途切らせないように自分に言い聞かせて、タイヤが減っていく分は乗り方も工夫しながら走っていました。

2nd PLACE：余 快 選手

2位はちょっと悔しい結果です。タイヤを労わりながら走って最後に逆転のチャンスを狙っていたのですが、終盤は体力もなくなったし、もっと早く前に入るレース展開を狙うべきでした。水越さんはすごく速くて、自分はまだ学ぶことが多いなと思いました。それでも、前の大会より大きく順位を上げられたことはよかったです。次こそは優勝したいです。

3rd PLACE：東 拓志 選手

スタート前はなんとか先頭集団に追い付いて、展開次第では優勝も狙うつもりでした。1周目はリスクが高いけれど、行くしかないと思って勝負しました。予選を走っていない分タイヤが残っているので、そこからは落ち着いて順位を上げていきました。いっぱい抜けたのは楽しかったけれど、第7戦をちゃんと走れていれば、という悔いも残るレースでした。